

吉田正太郎氏（前副会長）を偲ぶ

温い抱擁力の人

松下正己

吉田さんは、明治三十年十月十八日、京都府船井郡和知町のお生れ。大正八年府立城丹農事講習所第二回卒、ちょうど城丹が蚕糸業組合立から府に移管されたころに学ばれた。

運動会にハダルマおどりを考案して綾部の町を練り歩いたエピソードの持ち主。また在学中テニスの選手として活躍し、コーチだった京都高蚕、藤原完爾氏のすすめで京都高等蚕糸学校（京都工芸繊維大）に進み、卒業後京都府技手として園部蚕業取締所に勤務された。

ゲンゼとの関係は園部、田辺蚕業取締所時代から強く、懇請されるままに都是製糸に入社、もっぱら社の中枢である原料畑を歩かれ、とくに宇島、七尾、舞鶴の各工場原料主任で活躍された。いまでもその業績は高く評価されている。

昭和十五年、太平洋戦争勃発の前年に東京出張所々長を命ぜられてゲンゼ（株）東京支社の基礎を築かれる。現社屋が建つ日本橋の用地確保は、氏の尽力によるものであった。その

後、福島本宮工場長、本社勤務を経て退社。昭和二十三年日本製糸協会事務局長に就任、

ついで三十年日本輸出生糸保管会社取締役を歴任、晩年はゲンゼ製品を販売する「ゲンゼの店」を経営されていた。

東京あやべ会については、綾高同窓会東京支部長の立場からも設定当初より副会長として、会の育成に尽瘁されている。とくに白波瀬米吉会長とは都是生糸時代から、あるいは城

大志万美代様（元幹事）を偲ぶ

思い出も今は悲し

下平信子

五月十三日早朝、安村様からお電話で「今夜半に大志万さんが急逝されました」と聞かれ、しばし忙然と立ちつくすばかりでした。「とにかく皆様にお知らせして下さい」との事、ダイヤルを廻すのもどこかしく、あわただしく半日が過ぎてしまいました。お通夜に伺う時刻となりましたが、高井戸のお宅へ伺う足も重く、も早やあのにこやかに迎えて下さる美代ちゃんも亡く、ただ安らかに眠られてしまわれたのでした。

御葬式には綾部会や同窓会の方々と参列させて頂き永遠のお別れを致しました。省ます

丹、京都高蚕を通して先輩後輩の間柄であり、傍目も羨む友情コンビであった。

白波瀬会長米寿祝賀会のスピーチで「次回には白波瀬さんは白寿、わたくしは米寿、共に祝い、この会場でやりましょう。」と張切っておられた言葉が懐かしい。

温和な、しかもあやべの端正な風貌で、よく微笑を唇にたたえておられた。温い抱擁力のある副会長さんだった。享年八十二歳。

れば、美代ちゃんと私の出会いは、父が都是勤務のため小学校二年の折、生地長野県より綾部へ移住してからです。小学校時代は、上野のお家へ遊びに行き、レンゲ草をつんでオマゴト遊びをした事、又女学校時代もずっとクラスが一緒に、放課後などは音楽室にスラリとしたお姿で、ピアノに向っていられたのが印象的でした。卒業後は戦中戦後でお互いに途絶えたまま同窓会東京支部で久しぶりに再会し、お互いに住居がクラスの中でも一番近くなのがわかったのです。そして美代ちゃんが幹事をしていらした綾部会にも、同窓会の皆様と入会させて頂き、毎年楽しみにして来ましたが、今年はお姿は見えず、私にとりましては綾部会の生字引を失って途方にくれるばかりです。今はただ残されたお友達と折にふれあなたの思い出を語り会って慰めて居ります。美代ちゃん、どうぞ安らかに……。